

製品名: CSK マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80904**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | マウスモノクローナル抗体 |
| 宿主 | ねずみ |
| 応用 | WB,ICC,ELISA,FC |
| 反応性 | 人間、マウス、サル、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | Mouse IgG1 |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400 |
| 分子量 | 50kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|------------------------------|
| 遺伝子名 | CSK |
| 別名 | MGC117393; CSK |
| 遺伝子 ID | 1445.0 |
| SwissProt ID | P41240 |
| 免疫原 | 大腸菌で発現したヒト CSK の精製された組み換え断片。 |

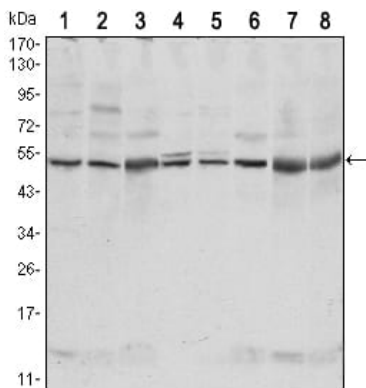
背景

カルボキシ末端 Src キナーゼ (Csk) は、普遍的に発現する非受容体型チロシンキナーゼであり、SFK のカルボキシ末端チロシンをリン酸化することで Src ファミリーキナーゼ (SFK) を負に制御します。リン酸化カルボキシ末端チロシンは、SFK の SH2 ドメインに

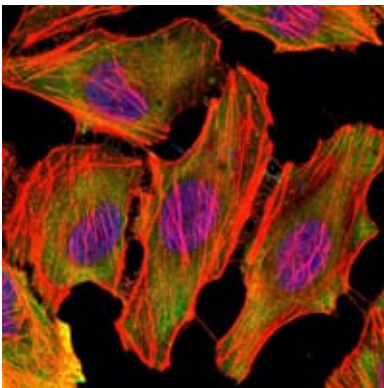
分子内結合し、SFKのフォールディングと不活性化を引き起こします。このCsk触媒によるSFKチロシンリン酸化は、非常に特異的かつ排他的です。SFKのカルボキシ末端チロシンは、Cskの唯一の既知の生理学的基質です。組織特異性：肺およびマクロファージで発現します。

研究分野

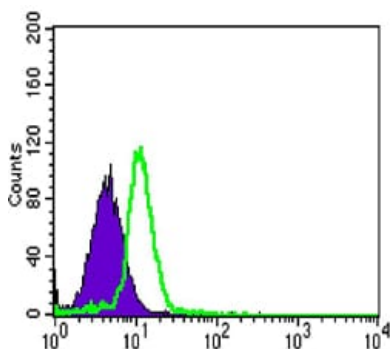
画像データ



NIH/3T3 (1)HeLa (2)COS7 (3)、Jurkat (4)、Raw246.7 (5)、A549 (6)、HL-60 (7)およびPC-12 (8)細胞溶解物に対するCSK マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



CSK マウス mAb (緑) を用いた U251 細胞の免疫蛍光染色。青：DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤：Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



CSK マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (紫) を使用した HL-60 細胞のフローサイトメトリー分析。